



ひびき 南山田小学校だより

Letter of the M.Y. elementary school

～ ともだちいっぱい かがやく子 ～

学校通信 NO.305
令和 3 年度 7 月号
令和 3 年 6 月 30 日

～ 未来に向かって 伸びゆく 南山田っ子 ～

校長 佐藤 康晴

先週の 6 月 25 日（金）に、都筑小学校で「よこはま子ども国際平和スピーチコンテスト 都筑区審査会」が開催されました。本来ならば、都筑公会堂で、各校の応援や保護者の参観があつての開催でしたが、昨年度からの新型コロナウイルス拡大によって、昨年度は中止となり、今年度は、可能な限りの密を避ける形を模索しての開催となりました。

南山田小学校の代表として 6 年生、中西優理子さんが参加しました。中西さんのスピーチの冒頭部分と抜粋した一節をご紹介します。

『 多くの子どもたちを笑顔に 』

「 私は、毎日学校に通って学びたいことを学んでいます。また、新しい事を知る喜びや、出来たときの達成感を感じ、幸せに過ごしています。しかし、今、この世界には、約 6 千万人もの子どもたちが教育を受けられず、笑顔で過ごせていません。教育を受けられないことで、安定した仕事に就くことができず、貧困に苦しみながら命を落としてしまうこともあります。そのことを知り、教育を受けられないことは、私の想像以上に深刻な問題だということが分かりました。（途中略）私は、世界中の誰もが教育を受けられるようになるために、出来ることを考えました。私は、以前募金や献金をしたことがあります。それだけでは、全ての子どもたちを救うことは出来ません。なぜなら、子どもたちが学校に通うためには、お金だけでなく、先生として教える人や、学校を建てるための知識や技術も必要だからです。私は「私自身が知識を身に付けていれば、世界中の子どもたちを救うことが出来るかもしれない」と気付きました。先生になり、より多くの子どもたちが教育を受けられる環境を作りたいと思いました。（途中略）今はまだ、世界には教育を受けられず、貧困に苦しんでいる子どもたちが沢山います。私は、そういう子どもたちに、生きるために必要な知識や、子どもたちが興味をもったことを教えたいです。そのために、今までよりも、一生懸命勉強に取り組み、教育の力で多くの子どもたちを笑顔にしたいです。」

中西さんは、真剣に、丁寧に多くの人たちに伝えようと話しかけました。

自分自身の今の生活と貧困に苦しんでいる多くの子どもたちの生活を重ね、今、これから、自分に出来ることは何かを深く考え自問自答し、自分に出来る事を一つひとつ積み重ねていき、自分が教師となり、教育の力を通して、主体的に行動していく事が、貧困をなくし多くの子どもたちの生活を豊かにし、笑顔につながっていくのではないかと話しかけました。スピーチをしている中西さんは、自分の言葉で、時に優しく、時には熱い想いを投げかけるなど、表現豊かに語りかけていました。その姿はとても立派でした。

校内選考会で発表してくれた各クラスの代表のスピーチは、どのスピーチも、しっかりとした視点・内容を持ち、甲乙つけがたく、大変素晴らしいものでした。私は、発表をしてくれた 3 名の南山田っ子から、「誰一人取りこぼさない、より良い未来を創造していく」そんな姿を強く感じました。嬉しい気持ちで一杯です。

今月も、保護者の皆様、地域の皆様のご支援・ご協力をいただけましたら幸いです。どうぞよろしくお願ひいたします。